



# 「府民の会」次々と署名…街頭宣伝!! 四条烏丸

## 府知事・京丹後市長は受け入れ「協力」表明を撤回せよ!!

## 急いで、抗議FAX・署名をひろげよう!!



### 基地がないのが、いちばん安心・安全です。

9月19日の京都府知事・中山京丹後市長の両氏がXバンドレーダの設備計画に防衛大臣が「政府が責任を持つ」といったことを理由に「協力」を表明したことに大きな怒りが広がっています。

①電磁波の影響、②米兵・軍属160人による治安、③米軍基地設置に関する環境調査、④「地位協定」等、何ら住民の安全・安心が明らかになっていないのに、「国益」「国防」をたてに、住民の安全・安心よりも「国益」を優先するに至っては、地方自治体の長としての資格が厳しく問われています。京都府知事に至っては、基地が攻撃された場合を想定し、「万全の(迎撃)体制」が取れるよう、新たに防衛大臣に注文をつけています。住民の安全・安心には、「基地がない」のがいちばん安全。安心であることはいうまでもありません。

「府民の会」は、早速横断幕も「撤回せよ!!」にとりかえ、新バージョンのチラシで26日、四条烏丸で宣伝をしました。わずかの時間ではありましたが、高校生・母子をはじめ24人の方々が相次いで署名をしてくださいました。

俺ら岬の／灯台守は／妻と二人で／沖行く船の／無事を祈って…と、昔若かった人ならご存じの『喜びも悲しみも幾年月』の歌。若山彰がうたった。戦前・戦後の灯台守の夫婦の愛情を細やかに描いた木下恵介監督の感動の名作でTV上映から映画化された。その『新・喜びも悲しみも幾年月』の舞台となったのが、経ヶ岬灯台。主人公の夫婦は、佐田啓二・高峰秀子から、加藤剛・大原麗子に替わり、植木等が父親役で出ている。経ヶ岬の灯台は一九七三年に建設され、八六年から無人管理の灯台に移行した。いま、この経ヶ岬から「国防」と称し、米軍基地が配備され、レーダが照射されるようにしている。今も「沖行く船の無事を祈って」経ヶ岬灯台は漆黒の日本海を照らし続けている。わたしたちのたまたかを見据えるように。

喜びも悲しみも幾年月の  
舞台となった・経ヶ岬

